

開催地名	宮崎県 都城市
開催日時	令和6年12月13日(金)14:00~15:30
開催場所	沖水中学校体育館
語り部	近藤 恒史(千葉県茂原市)
参加者	沖水中学校(教員・2年生)、危機管理課職員、150人
開催経緯	本市は、内陸部に位置しており、沿岸部に比べて、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に対する危機感が低いように感じられる。学校の防災教育では、防災に関する基本的な知識を有しているが、実際に災害が起きたときにその知識を生かす方法等が分からないため学生・教員へ向け講演会を依頼した
内容	<p>■ 防災意識向上のための講演会—近藤恒史氏による防災の実践的対策</p> <p>本講演では、千葉県茂原市防災対策課の近藤恒史氏が、過去の災害対応の経験をもとに、防災の基本的な考え方や避難所運営の課題について語った。特に、「防災は事前の準備と適切な行動が鍵を握る」という考えを軸に、具体的な防災対策を紹介し、実践的な視点から災害への備えの重要性を強調した。本講演は、生徒を対象とした防災意識向上プロジェクトの一環として開催され、グループワークを通じた実践的な学びが取り入れられた。</p> <p>■ 過去の災害経験とその教訓</p> <p>近藤氏は、これまでに対応した大規模災害について、それぞれの特徴や課題を共有し、どのような対応が求められたかを振り返った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東日本大震災(2011年3月11日) <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県茂原市でも強い揺れを観測し、多くの家屋が損壊、ライフラインが停止した。 ・避難所は多くの住民で混雑し、物資不足や衛生環境の悪化が深刻な問題となった。 ・住民同士の助け合いが不可欠であり、自主的な役割分担が避難生活を円滑にした。 2. 熊本地震(2016年4月) <ul style="list-style-type: none"> ・震度7の地震が2回発生し、多くの建物が倒壊。 ・体育館の天井が落下し、避難所として使用できなくなるなどの課題が発生。 ・「避難所が使えない場合の代替策」を考える必要があることが明らかになった。 3. 令和6年能登半島地震(2024年1月1日) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の避難の遅れが問題となり、低体温症や健康悪化による二次被害が発生。 ・避難所での「見守り」の重要性が再認識された。 ・避難生活の長期化に備えた計画が、今後ますます重要になることが浮き彫りになった。 <p>■ 震災後の対応と復興活動</p> <p>災害後の復旧活動や、避難所運営における課題とその対応について、具体的な取り組みが紹介された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 避難所の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールベッドやパーテーション(間仕切り)を導入し、プライバシーを確保。 ・高齢者や障がい者のための専用スペースを設置し、快適な避難環境を提供。 ・避難者自身が主体となり運営に関わることで、より円滑な避難所運営が可能となる。 2. 物資供給と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生直後は物流が停止し、支援物資の到着が遅れるため、家庭での備蓄が重要。 ・「最初の3日間は自力で生活できる準備」を各家庭で進めることが推奨される。 ・被災地では食事の栄養バランスが偏るため、炊き出しや栄養補助食品の活用が求められる。 3. 健康管理と感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所内でのエコノミークラス症候群の予防として、水分補給と適度な運動の重要性が指摘された。 ・簡易トイレの設置や衛生管理の徹底が不可欠。 ・医療チーム(DMAT、JMAT)の役割と、避難所内での健康管理体制の確立が重要。 4. 防災教育と地域の協力 <ul style="list-style-type: none"> ・住民同士が日頃から防災について話し合い、共助の意識を高めることが重要。 ・小学校や中学校での防災授業を増やし、次世代の防災リーダーを育成する取り組みが進めら

れている。

・自治体と住民が協力し、避難所運営マニュアルを事前に作成することが有効。

■ 今すぐできる防災対策

講演の最後に、近藤氏は「災害に備え、今すぐできること」を以下のようにまとめた。

1. 迅速な避難行動を心がける

- ・「まだ大丈夫」ではなく、「すぐに避難する」意識を持つことが命を守る鍵。
- ・ハザードマップを確認し、事前に避難ルートを把握しておく。

2. 家庭での備蓄を徹底する

- ・食料や水、簡易トイレ、毛布など最低3日分は用意する。
- ・季節に応じた防寒具や熱中症対策グッズも準備する。

3. 避難所の環境を改善するために協力する

- ・避難所では互いに助け合い、役割を分担することが円滑な運営につながる。
- ・特に高齢者や子どもに配慮した環境づくりを意識する。

4. 地域の防災活動に参加する

- ・防災訓練や地域の自主防災会の活動に積極的に関わる。
- ・普段から近隣住民と交流し、いざという時に助け合える関係を築く。

5. 情報収集を怠らない

- ・最新の気象情報や自治体の防災情報を常にチェックする。
- ・SNSや防災アプリを活用し、正確な情報を入手する。

■ まとめ

近藤氏は講演の締めくくりとして、「防災は知識だけではなく、実際に行動することが何よりも重要である」と強調した。防災意識を日常生活に取り入れ、いざというときに冷静に行動できるよう準備を整えることが、最も効果的な災害対策である。

「今すぐできることを実践し、地域全体で防災力を高めていくことが求められます」との言葉で講演を締めくくった。



開催地より

公演内では具体的な体験談を通じて災害に対する危機感を得る事が出来、その後の避難所運営体験では生徒一人一人が自分事として活動を行っていた。